

橘町の見どころ

まちの歴史シリーズ ②⑥

橘町HP <https://tachibana-net.jp> [歴史・史跡](#) クリック

発行：橘町まちづくり推進協議会
ふるさと部会
発行日：令和6年8月1日
責任者：國平 安治
原稿作：宮下 正博
事務局：橘公民館 22-3884

今月号の案内者は

のうて 納手区長 鳥越 弘隆さん



★印番号の解説

★①日鼓城を攻められる

だれ 誰に、なして攻められたとやったっけ？



日鼓城跡（武雄よかところプログ）

先月号は、橘から後藤に養子に行った純明が、渋江公親（橘渋江氏）の日鼓城を攻め落とした話やった。

今回もタッパ君に質問すっけん、説明バお願いすっパイ

渋江から後藤に養子に行った純明が、弟の公親（母が波多氏の娘）を攻めたのは、渋江氏の領土を支配するためと考えられるね。これで、後藤氏が全体を支配できたんだから。

（中島信夫氏は「純明は先手を打って、波多・千葉・龍造寺などの勢力から守ったのでは」と書かれています。）

今回は、潮見城がどうして負けることになったのかのいきさつと、その後、橘氏一族はどうなったかということの説明するよ。



「たっぱくん」

★②再び負けて渋江公親たちは・・・

城が落ちた時、死んだとじゃなかと？

再び敗れても、死なずに、公親は佐賀の龍造寺を頼り、子の公師と公重は山鹿重行をたよったんだ。

★③有馬氏 有馬氏の紋章

有馬さんて誰や？



有馬氏は島原半島南端の有馬町を本拠に、その彼杵・藤津・杵島まで力をのばしていた一族。山口の大内氏に通じていて、【大内（山口）十有馬（島原）VS 少式（東肥前）十千葉（小城）】という争いの中で、杵島の潮見を攻めたという背景があるよ。（注：地名は現在の名称）

橘公業のイメージ



わしら橘一族は290年も長い間、武雄周辺ばおさめとった！！ここ大事

鎌倉時代1237年に公業が長島庄に来てから290年（1527年）、渋江公親は後藤純明に日鼓城を攻め落とされたことは前号で説明したね★①

公親は波多氏を頼り、5年後に一時日鼓城を取り戻すけど、再びまけるんだ★②。

この頃島原の有馬氏★③は山口の大内氏★④に通じており、反大内派の小城千葉氏と杵島周辺で争うようになってくる。

そこで後藤氏に養子に入っていた貴明は、永禄2年（1559）、一族協議して山鹿から公師・公重兄弟（公親の子供）を潮見城に招き★⑤、有馬方の抑えとしたんだ。

しかし、潮見城を守っていた公師たちは有馬軍にあえなく落城★⑥。（潮見城落城は第14号参照）

貴明はすぐに城を攻め★⑦有馬の大將、有馬丹波守も戦死、その後は★⑧・・・

★④山口県の大内氏



そんなとき負けた人が丹州公たんしゅうこうって言うけ
んが、**納手**のうてに**丹州堀**たんしゅうほりのあっとね。そい
にしてん、貴明はひっちゃかナーイ

そがとおん遠かところからもやー？

当時、大内氏は中国地方をおさえ、さらに
北部九州にも進出しようとして、たびた
び少弐氏&千葉氏と争っていたんだ。



長泉寺の下には、この時戦死した人の塚が
田んぼの中にあっただが、今はコモにおおわ
れている。このあたりを丹州堀と呼ぶ。



★⑤ 後藤貴明が呼び戻す

なししぶえおやこ渋江親子バ、呼び戻したと？

彼杵郡の領主大村純忠は、有馬仙岩の
2男。有馬と力を合わせて杵島に進出
してきたので、後藤貴明は南から強
力に攻められることになるね。

そこで、潮見城に渋江一族を呼び戻して
『長島は橋氏の本領なので』として守ら
せることにしたんだ。

貴明は、戦術的には自分で渋江しぶえ（つまり義理
の父親の里）を滅ぼすよりも、有馬氏に任せ
たがいいと言う計算が働いたとボクは思
うね。

★⑥ 潮見城落城

日鼓城落城と潮見城落城
は、ごちゃごちゃになーね。

日鼓城落城は、1527年、後藤純明ことうすみあきら（橋
出身）が弟を攻め、**長島庄を自分のもの**
にした時。潮見城落城は、33年後の
1560年に有馬氏が攻略した時なんだ。

★⑧ 落城後は・・・

渋江氏は、まけてからは、どがんしたと？

公師きみちろは、再度貴明に味方（塩田の**粉岳城**）
し、原直景の妹を妻とするけど、大村攻め
の時に貴明に疑われて**大村氏に属して**、
波佐見を守ったんだ。（詳しくは次号）

★⑦ 貴明がすぐさま取り返す

この時の領主は、純明すみあきら（渋江出身）の養子
になった貴明たかあき（大村出身）。有馬の防衛線と
して渋江一族に守らせたけど、**潮見城の**
落城で、渋江氏は事実上滅亡。
貴明は応援要請には援軍を出さず、落城
の後すぐに有馬を攻め、大将の有馬丹波
守を討ちとった。丹波守なので「**丹州**
公」と呼ばれていたんだよ。

公師の弟**公重**は、菊池の娘を妻にし
ていたけど戦死。その子孫は、菊池で
文教の祖とあがめられ、菊池藩で活躍
したんだ。今でも**菊池城の一角**に一族
の墓があり、大事に守られているよ。
また、渋江神社は移転新築している
よ。（河童伝説が橋渋江に由来することなどは次号
で）



渋江氏の墓



渋江の墓があ
る金毘羅神社



渋江神社

中島信夫著「橋町の歴史」を基に作成

今回ご紹介した時代は『**戦国時代**』でした

